

アルプス表銀座、不老の旅。

和田 明

未踏峰冷龍嶺を征服した登山家をC・Lに、平均年齢64歳のラトナチュリ登山で、脚光を浴びた新鋭をS・Lに、現職労働者・マドンナ・何もかも引退寸前の老人に、フアマー熊を加え、中房温泉に向かった。遊ぶ時は、心に余裕があり、予約宿に、「高知の僻地から10時間かけて車を走らしている、何か一品サービスを」と声をかけた、返事がなかったが見事応えてくれた、アツと言う間に底をついた。

朝風呂にも入り、弁当持ちで6時に発ち第1ベンチから忠実に休み合戦小屋に着いた。ワケ有りの先輩がワケ有りの乙女に、「アイゼンは」、「要らないわ」と高見山のように下山していった。泊まりたい山小屋、日本一に早々に入り、個室二千五百円高は必要なく、2パーテーターのみで、シーズン・休日をずらすとアルプス銀座は、独占である。雪山登山が初めてのフアマーは、烟仕事より楽だと狂健美茶を飲み、軽量化を計ったザツクを置き、燕岳を空身で登った、心臓がパンクしそうだと騒いでいた。夕陽もソコソコに団

でいた。夕陽もソコソコに団樂床についた。翌日は、尾根を「流浪」し14時には下山し、昼神温泉に向かった。美人ガイドが「ガソリンを入れたら」と声をかけたが、「車より温泉が先」、この頃から小脳が故障ぎみ、カーナビを無視し小路に入り、やがて宿が見え「なんや平家じゃないか、駐車場はあるが、この一時間、わが定宿は健全とは限らない、何せ、一泊七千五百円で、今回の宿の最低料金、三面のテニスコートも無事であった。

予約してから一名増えている連絡をしてなく、急ぎ七等分したかな、と思いつつ、いつも接待され豪勢な夕食の社長から、「宿に余計なことを言うな」と厳しく言われていたので、料理のことは一際触れずにいたが、露天プロとも満足していた、「最終評価は朝食後」御もつともである。朝食は、干物と漬物物だろうと思っている傾斜社長、「夕食もこれでいい」今後、定宿にしたい、拠つて一千円安の交渉を、にわか経営学者はき

びしい。朝市で撒餌を買い、気分は現実にもどろつつある、総合学習や試験中でも職朝がある学校現場。高退協のこと、目前に迫った参院選と話題は尽きない、事務局会から旅の原

稿依頼を三名の事務局欠席者に要請、ワイワイガヤガヤ、合作原稿である。三つ指で迎え、抹茶で癒してくれる愛妻のもとえ、山行も終り、ザツクもストックも、もういらな

い、4千円のパンツさえあれば、年金も信託した、老後は気楽なもの、宿題は、公用車問題のみ。



燕山頂より槍ヶ岳を望む

私の本棚

『日本国憲法のすすめ』

視角と争点

憲法研究所・上田勝美編

今日ほど日本国憲法の危機と言えり時代は、かつて無かったのではないか。特に九〇年代後半以降、専守防衛を基本とする日米安保体制が大きく変質させられ、『戦争する国家』へと質的に変化しようとしている。

改憲論は、従来の『押しつけ憲法』論では国民が納得し得ないと考え、『冷戦終結後の世界情勢から見ると、憲法は古くなり、現実と乖離し過ぎている』と主張し、

第九条に焦点をあわせて恒久平和主義と人権尊重の条項を変えようとしている。また、『創憲』の名のもと『九条に自衛権を規定し』さらに緊急事態や集団的自衛権の問題にも踏み込んだ規定が必要だとして、やはり第九条の改訂を求める主張がある。

本書は第一章 日本国憲法はいま、第二章 平和主義はいま、第三章 基本的人権はいま、第四章 政治制度はいま、から成り、一貫して現憲法の完全実施に向けた政治の実現が主張されている。このような憲法をめぐる情勢の中で、はたして日本国憲法は

『改憲しなければならぬ憲法か』あるいは『二世紀の日本の憲法として、その任に耐えうる世界に誇ることのできる憲法か』ということを歴史的に証明しようとするのが、本書の意図である。

もちろん、日本国憲法は、平和が熱望されている二一世紀に益々その『ねうち』を発揮し、国際法や各国の憲法にとりいれられるべき先進性や普遍性を持っている、と評価できるものである。

今日の国際紛争の主たる原因が、先進国の経済的拡張主義や軍事政策あるいは途上国の構造的暴力にあると考えられるが、軍事力

を基礎として平和を確保しようとするのではなく徹底した非戦型の安全保障を決意した日本国憲法は、日本国民のみならず諸国民の平和的生存権を保障するばかりか、武力の行使を禁止した国際連合憲章が論理的に追求している道に先行し、次代の安全保障の基本理念を指し示していると言えよう。(幸泉)

会費納入のお願い

2010年度分会費納入がまだの方はお早めにお願ひします。

2010年度分会費納入がまだの方はお早めにお願ひします。

山の会より

浜田昌俊さん 九十歳の記念登山

六月例会にて

高知教職員山の会の六月例会が、去る六月六日(日)「参勤交代の道(北山越え)」と坂本龍馬先祖の墓訪問」のコースで開催されました。この例会は、浜田昌俊さんの九十歳記念登山を兼ねて実施され、当日急遽参加された浜田さんの旧制城東中の時の教え子の方を含め、十八名が参加しました。

当日、八時半に道の駅南国の駐車場を出発し、先ず龍馬の先祖の墓のある南国市才谷の龍馬公園に向かい、そこで野島辰平さんより龍馬の生い立ちや二〇〇三年より整備してきた参勤交代の道について説明してもらいました。

山行は、瓶岩の登山口から権若峠(標高五五〇米)までの二、三キロを往復するものでした。登り始めて約一時間でまず一休み。そこは、参勤交代で実際に行列を止め人馬を休ませたという「中休場(なかやすば)」である。野島さんたち瓶岩地区の人たちが長年整備をしてこられたと、このこと、案内板やベンチもある。「当時はこんなところを籠を担いで千人を越す行列が行ったのか」などと想像しながら、登山口から約二時間少々で峠に着きました。

峠は権若峠(ごんにやくとうげ)という。天気も良く、はるか南に土佐湾から南国平野まで一望できる絶好の眺めである。参勤交代の道はここから穴内、本山、立川と続き、さらに笹ヶ峰を経て川之江に至るといふ。峠で浜田さんを中心にして記念撮影。

「浜田昌俊さん九〇歳記念登山」の横断幕も用意されていた。下山後はレストラン岡豊城にて浜田さんを囲んで茶話会を持ちました。浜田さんは「これまで山の会ですつと登山を続けてこれたことが何よりも幸せなことだった」と話しておられました。なお、この記念登山については、前日の高知新聞でも大きく取り上げていました。(土居)



初月農園だより
良心市編 島本 聡

サカタやタキイの1袋の種をトレイやポットに蒔くと、自家製の種と違って95%以上の発芽率である。育てた苗は捨てるのが辛い、苗の数に合わせて畝をつくり1本残らず植える。1袋でシントウやレタスなら200本から300本、ナスなら150本育つ。雑草や害虫をとり苦勞して育てた無農薬の新鮮野菜は、実においしい。であるが、手当たり次第に作った野菜の最適収穫時期は、意外に短い。枝豆やスイートコーンで一週間、レタス、ブロッコリー、ズッキーニなら2、3週間である。トマト、シントウ、カボチャ、サツマイモ、ケルン、落花生と、手当たり次第に育てた野菜はとても食べきれぬ量ではない。在職中はトラックに積んで職場にもつていったりしたが、退職後は意外と面倒である。なら良心市でも建てて置いてみようか。妻は「建築科のMさんに頼んでみては」Mさんは言う「この方で、屋根は日本瓦、壁は土壁、柱の木

は間伐材を利用したログハウス風にと。1年余りが過ぎた。私が建ててやる」と申し出ても再度頼めと妻は言う。Mさんはい「間伐材を妻の実家の橋原までみにゆこうと」。新採で橋原高校に勤めたころの辞職峠と呼ばれた九十九折りの美しい茶畑は通らない、いくつものトンネルが抜け、須崎から40分で太郎川公園に着く。雲の上のホテルの手前を大正町の方に下りながら、猿が農作物を食べでどうしようもないと話している、4、5匹の猿が道端にいるのである。やはりここは田舎のなかの田舎だ。四十十川の支流沿いの山間の家は、昔なつかし五右衛門風呂があり、納屋には、鍬、蚕のむろなどが置いてある。さっそく山に登り間伐材を探すがなんと直径25センチ以上もある立派な木ばかりで、軽トラックに積んで帰れるものではない。チェーンソーまで用意していたのに、残念。でも炭火で焼いた鮎と、1人暮らしのお母さんに五目寿司をご馳走していただき満足。「この田舎の家を昔のたたずまいを残して建て直

し、もてなし食事の出来る宿にしたい」というMさんの実現しそうな物語を聞きながら間伐材の獲得は終わりになる。さて良心市は？私の出身である。そこいらにある材を打ち付け、裏の竹藪から竹をきりだし、それらを組み合わせて、ブロックのせ一畳ほどの売り場面積のものを半日ほどで作る。Mさんの構想とは随分ちがうが、余った野菜がまっついてるので待てないのだ。「皿50円、スーパの半値以下である。置いてみると、直ぐにうれる。売れるのが嬉しいのか妻はせつせと収穫しては、店にだす。今日の総売上600円だと喜ぶ。余ったものを出す目的がやがて残りものを自分たち食べることになるのに。今日も10円や1円が入って、お金足りない」と妻は嘆く、それならお金をいちいち確かめるのをやめにしたら良からう。納得。だが2、3日置いておいたところ、入っていたお金がなくなっている。それなら缶のふたあかないよう針金でまいておこう。2、3日置いたが今度は針金を切って缶ごとなくなっていた。それなら絶対に持つて行けない大きな集金箱をつくらう、100円の入る口を電動のこで削ると、電動のこが跳ね上がり、自分の足に入り口をつくってしまつた。

わが良心市は気ままである。予約はおことわり、雨が降ればなし、虫と一緒に食べてくれ、大きくても、小さくても曲がついていても値段は同じ、それでも1日に3回も4回も見に来る人がいる、自給50円？いやマイナス50円だろう。総売上1000円台をめざして、今日も妻はがんばるのである。